

棚の中には 何がある？

What is on the Shelf?

都市工学科が入る工学部 14 号館には、「高山文庫」と呼ばれる場所があるという。都市計画家・高山英華の名がついたこの書庫について、編集部が潜入取材を行った。



小さな部屋の中に、所狭しと資料が並ぶ

隠れた一室、高山文庫

The Hidden Room, Takayama-Bunko.

text_TAJIMA / M2

高山文庫とは、かつて東大都市工学科の教員を務めていた高山英華氏の蔵書が収納された部屋の事を指している。今回は、この蔵書の整理を担当されていた中島直人准教授の協力の元、高山文庫の見学を行い、高山文庫に関わるエピソードについての取材を行った。

高山氏は都市計画家として全国各地の事業に携わっていただけでなく、1962 年の都市工学科設立の際に中心となって動いていた人物の 1 人でもある。そして 1971 年に東大を退官した後、彼が所蔵していた文献資料やプロジェクト資料などは都市工学科に寄付されることとなった。

高山氏の喜寿記念の際に作成された蔵書目録の序文によれば、その蔵書は日比谷公会堂の一室で保管され、いずれは都市計画専門図書館へ収蔵されることが予定されていたようである。しかし、図書館設立は断念され、高山文庫は幾度か保管場所を変えながら、2000 年代半ばに 14 号館で保管されることが決まったという。そしてその際の蔵書整理の中心となっていたのが当時助教であった中島先生と、博

士課程の学生であった初田香成氏（現：工学院大学准教授）であった。

中に入ると、書棚が 4 列入っている。非常に狭い空間だが、資料を取り出せるようにするために移動式の書棚となっている。所蔵されているのは各事業の調査報告書や参考文献、各プロジェクトのファイルなどが主である。他にも図面や手書きノート、都市工演習資料など、膨大な資料が今も大切に保管されており、短い時間での見学であったが非常に有意義な時間となった。

中島先生によれば、高山氏の没後、これまでの業績を整理していく取り組みの中で高山文庫の資料調査や、その成果の発表を行う事も計画されていたそうだが、中心となっていた川上秀光氏の体調不良等もあり、未だ実現に至っていないという。

偉大な都市計画家の所蔵資料が 1 か所に集められているということは大変貴重なことであり、現在は整理中ということで一般の利用は制限されているが、これらの資料から新たな事実が明らかになることを期待している。



▲戸山住宅の測量図を眺めるマガジン編集部



▲高山英華の名が入ったトランク

所蔵されている資料

The Archive of the Library

収納されている資料をみると、高山英華がかつて関わっていた事業についてうかがい知ることができる。今回はその一部を紹介する。

東京オリンピック (1964)

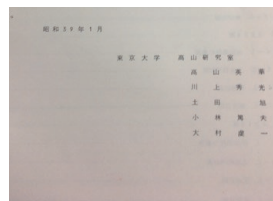
学生時代はサッカー選手として 1936 年のベルリンオリンピック代表候補にもなっていた高山英華。病気で出場は叶わなかったが、1964 年の東京オリンピックの際には施設設計画に携わっていた。蔵書の中には設計計画図が見られるほか、ゴルフの教本などもおかれており、スポーツに造詣が深かったことが伺える。



▲サッカー場の含まれていた駒沢公園の計画は特に思い入れが強かったそうだ。

ニュータウン計画

高山氏の功績の 1 つに、高蔵寺、筑波研究学園都市など、日本最初のニュータウン開発に携わったことが挙げられる。これらのマスタープランの作成には学生も参加しており、今の都市デザイン研究室のプロジェクトに近い形をしていたと考えられる。



▲高蔵寺 NT の計画検討資料
前書きには学生の名前も存在する

奥田教朝・川上秀光

この書庫内には高山氏の蔵書の他、都市工学科の教員を勤めていた川上秀光氏、奥田教朝氏の蔵書も収納されている。研究室 OB の阿部正隆氏は、修士研究の中で奥田文庫の「都市計画連絡協議会」資料を書き起こして活用していた。当時蔵書整理に携わっていたことがきっかけで資料の利用に繋がったという。

都市工学科の設立 (1962)

高山氏は建築・土木の先生方への声かけや関係各所との交渉、設立趣意書の作成、学科設立後は学科主任として学科全体を務めるなど、都市工学科の創成期に中心となって動いていた。

書庫の中には当時のカリキュラムや演習の資料だけでなく、教育会議のメモや卒業生の就職先を想定していた資料まで残存している。

プロジェクトの「現在」を映す棚

The Shelves Show "Now" of the Lab. Projects.

text_FUJIWARA/M1

現在、都市デザイン研究室では主に6つのプロジェクトが動いています。自分が所属しているプロジェクトのことは良く知っていても、所属していないプロジェクトのことはなんとなくしか知らないことが多いでしょう。今回は9Fにある各プロジェクトの棚に何がどのように置かれているかを見ながら、プロジェクトメンバーに各プロジェクトの「現在」を語ってもらいました。これを機に棚に映る「現在」、そして「未来」にご注目ください。

PJ名 棚1つを100とした時の空間利用率

PJメンバーによるコメント

高島平 36.4

改めて見るとものが少ないことに気づかれます。高島平が開発から50年程度であり、まとまった資料が少ないですが、今まで試みられなかった高島平の歴史を語るという目標に向けて様々な資料にあたっています。

富士吉田 79.9

過年度のプロジェクト報告書や周辺の詳細図があり、基礎的な情報は概ね揃っています。今年度は行燈WSや駐車場リノベなど現地での活動が中心なので、棚よりも現地に「もの」を残していければと考えています。

内子 170.7

昨年度から始まりましたが、歴史的風致を探し出すため、文献資料や写真、他の町の歴史計画の参考資料も数多くあります。これらの資料の多くは町から借りているもので、町からの期待の大きさを感じさせます。



三国 115.0

6プロジェクトの中で最古参ということで、地図やアンケート原票など膨大な資料が蓄積されていますが、年数にしては整理されているのではないのでしょうか。奥には2015年作成の「三国まちづくりビジョン」が控えています。

手賀沼 54.1

デザイン系の本や図面の下書きなど設計関連のものが多いです。施設内の設計は概ね決まったので、今後は不足していた周辺地域の歴史的、地理的文脈を手掛かりに調査するため、歴史や地図などの資料を拡充する予定です。

上野 64.5

少し前までは昨年度作成した大量の地図と資料が平積みになっていたのですが、最近棚のクリアランスを断行し、とてもスッキリしました。ただ、まだまだ分析することは多いのでこれからも資料は増えそうです。

Information



Hey listen, -ちょっと聞いて！

6.8 上野の演習始まりました



B4 演習、僕がTAを担当する上野チームは上野仲町のエリアリノベーションを構想中。風俗店立地や空きテナント調査で、何度も上野へ通います。成果物に期待。(M2 中戸)

6.21 マガジン旅行@神戸



西村先生を訪ねるべくマガジン編集部で神戸に取材へ。まち歩きでは編集部岡山の友人・神戸市の高見さんの案内で“ディープ”な神戸を満喫。詳細は8月の特集号で。(M2 中戸)

6.13-14 浪江で演習現地調査！



B4のオムニバス演習現地調査に同行しました。少しずつ変化する浪江の町でどのような提案がされるのか、楽しみです。(M1 前山)

6.24 小高大蛇伝説まちあるき



市が主催のまち歩きイベントの支援として参加。地元の小中学生など150名近くの方に参加いただき、晴天のもと気持ちのいいまち歩きになりました。(M2 新妻)

今月は都市デザイン研究室外の活動が多数行われました。その中でも、OBの方々が開催されたイベントの様様をWebマガジンをご覧ください。

6月のWebマガジン

<http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/>



6.15 人口減少都市シンポジウム2018

アメリカでの縮退都市に対する都市デザインの議論や、日中韓の都市計画の現在など盛りだくさんでした。(M1 山口)



6.30 町並み塾@三国

三国で行われた町並み塾、金野幸雄さんの古民家活用の話は非常に共感できるものでした！(M2 但馬)

7月の予定

Lab. Meeting
2nd, 13th, 20th

02nd (Mon.)	上野スクエア会議協議会
12th-15th	文京絵はがき大賞
15th-19th	国際都市計画史学会会議
20th (Fri.)	博士論文中間発表
21st (Sat.)	復興デザインスタジオ現地発表
25th-26th	修士論文中間発表
26th (Thu.)	研究室暑気払い

✖ 編集後記

銭湯というのは良い。そもそも風呂は命の洗濯と呼ばれるように疲れた心身を癒す場所である。特に銭湯は家でも仕事場でもない場所だから、喫緊のタスクを忘れることもできる。あと、家の風呂より広く、開放感があるのも非日常的で良い。それでいて、適度に騒がしいので考えすぎることなく、孤独になりすぎることない。たまには家の風呂ではなく、広い風呂へ向かう。そんなことができる町に将来は住みたい。今から考えておこう。(M2 但馬)